



衣装をきた劇団銅鑼のみなさん。最前列の中央左が鈴木瑞穂さん、その右が小関直人さん

生き抜く理不尽を越えて

さて、クイズです。町工場の新米さんが、目をさえ大騒ぎ。金属クズが入った、痛い、助けて、病院に連れていくって、へたをすれば眼球が傷つきます。でもベテランの職人さんにかかれば、あつという間に解決します。どんな方法でクズを取りのでしようか?

町工場をテーマにした小説、ノンフィクションをかかせたら、小関智弘(77)の右にでるものはいないだろう。

東京の大田区で51年ものあいだ、旋盤工をした。その間、クビ2回、倒産と廃業を1回ずつ経験する。小関が見て、聞いて、経験してきたことが、町工場の現実なのだ。

小関が若手だったころのことだ。ひとりの見習工が指を切り落としてしまう。やっちゃん

よー、と彼はフラフラ。すると、ベテランの職人が、バカヤローと言って、ほっぺたを思いつきたいたい。そばにいた小関は、あんた何すんだ、と職人に食ってかかる。

周りから、小関は叱られた。

お前こそ分かつてない。あそこでバーンとやらなかつたら、あいつは倒れ、機械に頭を打つて死んだろうね。あの一発で、しゃんとしただろ。

ある年の節分の夜があけた朝、ひとりの職人がこういうの

町工場をテーマにした小説、

を聞いた。

みんな、ゆうべは豆をまいた

のをいっぱいもっている。

産業界のしわ寄せは、いつも一番弱い町工場にくるけれど、その理

不尽さを越えていくのです

「現場の人たちは、豊かなも

のをいっぱいもっている。産業界のしわ寄せは、いつも一番弱い町工場にくるけれど、その理不尽さを越えていくのです」

直木賞、芥川賞の候補に、何度もなった。大手出版社の編集者から、作家一筋で行きましょ、といわれたこともある。

「旋盤工に踏みとどまつてよかったです。おだてに乗つかつていたら、たいした筆力もない私はつぶれていたでしよう」

2007年秋、小関に会いた

い、と2人の男がいってきた。

ひとりは、大田区の町工場

「豊精機」をいとなむ木村隆久(50)。音大を卒業し、オーケストラでトロンボーンを吹いたこともあったが、父親の死去で社長をついだ2代目だ。「先生に

の危機に。そこで見えてきたものは……」

08年3月、「はい、奥田製作所」が、東京の六本木で初演された。ガンコで、一人もクビにしたことがない社長がたおれた。継いた息子がリストラに走ると、従業員はバラバラ、倒産の危機に。そこで見えてきたものは……」

ガンコな社長は、鈴木瑞穂(83)が演じた。数々の映画やドラマに出演し、映画「ゴッド・ファーザー」のマーロン・ブランドの吹き替えなどもした名優である。

「町工場の人たちは、ひいひい言いながらも、生き抜いている。そのバイタリティーに、私は勇気をもらっている」

昨年2月、東京で再演。そしてことし、首都圏と長野であわせて31ステージ、来年は関西での公演が予定されている。

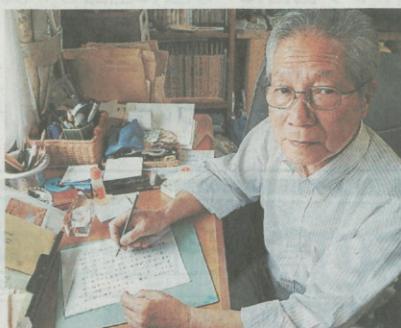
幕が上がりすぐ、新米従業員が、目に金属クズが入った、と騒ぐシーンがある。何人かで押さえつけて目をあけさせる。

ベテランの職人が髪の毛を一本抜いてクルッと輪に。そして金属クズを、ひよいつと引っかけ

れば、一件落着。

これが、冒頭のクイズの答

え。作家の小関が、新米の旋盤工だったときに経験した実話である。(中島隆)



上 小関智弘さん 下 木村隆久さん